

♪ 2022年度 *poco a poco* ♪

Nr. 3 2022年4月28日(木)

文責:プファイル・辰巳

## Komm, lieber Mai !

～ 来たれ、愛しき5月よ! ～

「春への憧れ: Sehnsucht nach dem Frühling」と呼ばれるモーツァルトの歌曲の冒頭句です。シューベルトの「ぼだい樹: Am Brunnen vor dem Tore」、ブラームスの「子守り歌: Guten Abend, gute Nacht」と並んで、古典的芸術作品なのに民謡のごとく知れ渡っているドイツ歌曲の一つです。

その歌曲の中で歌われる美しき5月が目の前までやって来ました。樹々の緑は目に優しく、ぐんぐん日が長くなっていく5月。Spargel(アスパラ)に Erdbeeren(いちご)など美味しいものが食卓に並ぶ季節でもありますね。春のエネルギーを吸い込んで、みなさんも元気に学校生活を楽しみましょう!

### 音楽こぼれ話 <その時、作曲家は・・・ ⑤ モーツァルト

#### 「ヴァイオリンソナタ ホ短調」K.304>

その曲を作曲していた時の作者が何を考え、どんな気持ちでいたかなど想像するしかないのですが、その頃の時代背景や作曲家の人生などを知ることは、その曲を深く知る上で興味深いと思い、この連載を続けています。冒頭でモーツァルトの歌曲に触れたので、今回はモーツァルトの「ヴァイオリンソナタ ホ短調」のお話です。

私がこの曲を初めて耳にしたのは大学生の時でした。学外でのジョイントコンサートに伴奏者として初の出演が決まった折、リハーサルで当時の教授お二人がこの曲を演奏されたのを聴きました。心がひどく波立ったのは第2楽章のピアノが始まった時でした。その優しくも物悲しいメロディに、思わず涙がこぼれそうになりました。そ



ばに居た他の出演者の顔を見ると、彼らの眼もなにやら潤んでいる様子でした。演奏後、みんなそのピアノ教授の演奏技術もさることながら、モーツァルトのメロディの美しさに驚嘆したことを分かち合いました。

「アイネクライネナハトムジーク」などに代表される通り、モーツァルトは軽快で明るい曲が多いのですが、このヴァイオリンソナタは「ホ短調」という暗い曲調で作曲されています。彼のヴァイオリンソナタの中で唯一の短調作品です。

このヴァイオリンソナタを作曲した時、モーツァルトは22歳。ちょうどパリに滞在中だったといえます。子どもの頃、ステージパパに連れられて来たときは異なり、この時同行していたのは母のアンナ・マリア。神童と呼ばれて、もてはやされた時代は終わり、演奏すれば拍手喝采はもらえるものの、その他の待遇は冷たいもので、もらえる謝礼も少なかったそうです。そんな中、優しく見守ってくれた母が熱を出し、そのままパリで客死してしまうのです。

そういう状況の中で作曲されたのがこのヴァイオリンソナタだったのです。母の死を想って作曲したかどうかは不明ですが、旅先での冷遇や母の死、そして失恋などの悩みを数多く抱えていた22歳の青年モーツァルトの嘆きが聴こえてくるような作品に仕上がっています。

この曲に私が再び出会ったのは旅先のウィーンでのこと。ぶらりと立ち寄ったオペラ座のミュージックショップで、この曲のCDを見つけました。パールマンのヴァイオリンにバレンボイムのピアノだったと記憶しています。お土産代わりに購入しようとレジに持っていくと、レジ係の女性お二人が「この曲すてきなよね。」と話しています。そして、店の奥からもう1枚同じCDを出してきて、その場で店内に響くようにかけてくださったのです。しばしの時間、3人でモーツァルトの世界に浸ったのはよい思い出になりました。

### ほんのちょっとだけ 演奏会情報

#### Burgfestspiele Bad Vilbel

(フランクフルトの隣町バードフィルベルの古城フェスティバル)

5月6日から9月11日まで、子ども向けの演劇やジャズ、室内楽など盛りだくさんのプログラム。詳しくは、[www.kultur-bad-vilbel.de](http://www.kultur-bad-vilbel.de)



アンナ・マリア・  
モーツァルト